

(2) 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)、つつが虫病及び日本紅斑熱 発生状況

1 重症熱性血小板減少症候群(Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome : SFTS)

1-1. 疾患概要

2011年に初めて中国で報告された、主に SFTS ウイルスを保有しているマダニに刺されることによって引き起こされる感染症。

マダニに刺されてから 6 日～2 週間程度の潜伏期間を経て、主に発熱、消化器症状がみられ、時に頭痛、筋肉痛、神経症状、リンパ節腫脹、呼吸不全症状、出血症状が出現する。致死率は 10～30%程度である。

予防法として、マダニに刺されないようにすることが重要な予防法となる。4 類感染症指定疾患。

1-2. SFTS の発生状況

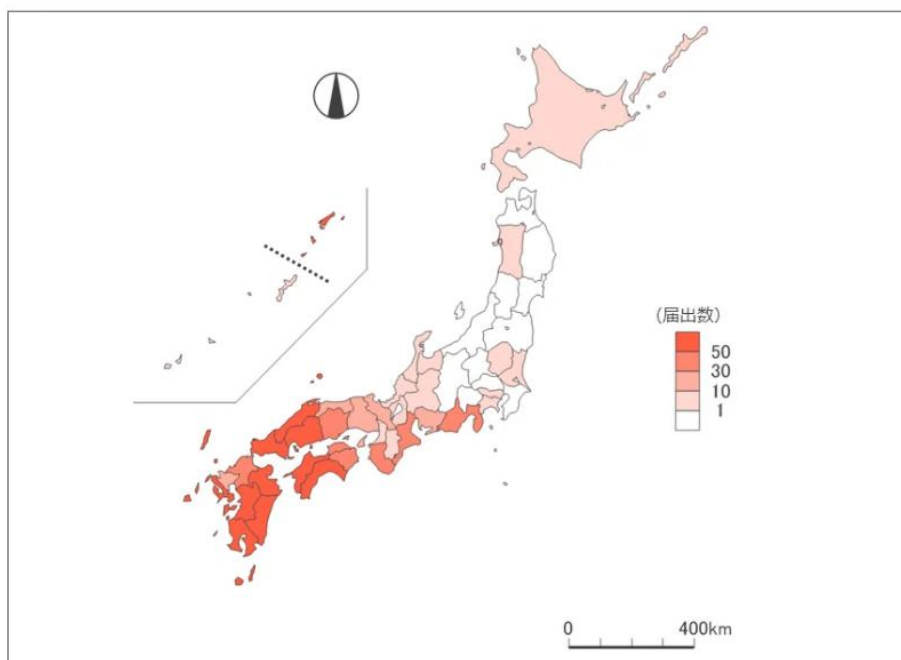
(1) 全国での発生状況

令和 7 年の報告数は、191 件であった。(速報値)

令和 7 年は、高知県 (15 件)、大分県 (13 件)、静岡県 (13 件)、長崎県 (12 件)、佐賀県 (11 件)、熊本県 (11 件) の順に多く報告された。

【参考：平成 25 年 3 月届出開始から令和 7 年 10 月 31 日までの報告数】

図2. SFTS届出症例の届出地域 (n=1,242、2025年10月31日現在)



届出都道府県	届出数
北海道	1
秋田県	1
茨城県	1
栃木県	2
東京都	2
神奈川県	2
富山県	2
石川県	2
福井県	4
岐阜県	1
静岡県	31
愛知県	12
三重県	38
滋賀県	1
京都府	20
大阪府	8
兵庫県	25
奈良県	1
和歌山県	43
鳥取県	13
島根県	65
岡山県	39
広島県	99
山口県	94
徳島県	45
香川県	32
愛媛県	55
高知県	96
福岡県	37
佐賀県	29
長崎県	97
熊本県	60
大分県	70
宮崎県	124
鹿児島県	88
沖縄県	2

【出典】国立健康危機管理研究機構 感染症情報提供サイト

(2) 県内での SFTS 発生状況、患者疫学調査結果

令和 7 年の報告数は、7 件であった。

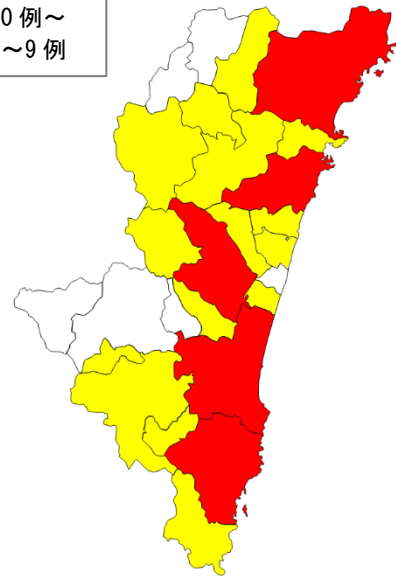
年代は、20 歳代が 1 件、60 歳代が 1 件、70 歳代が 3 件、80 歳代以上が 2 件であった。

【参考：平成25年3月届出開始から令和7年12月31日までの累積データ】

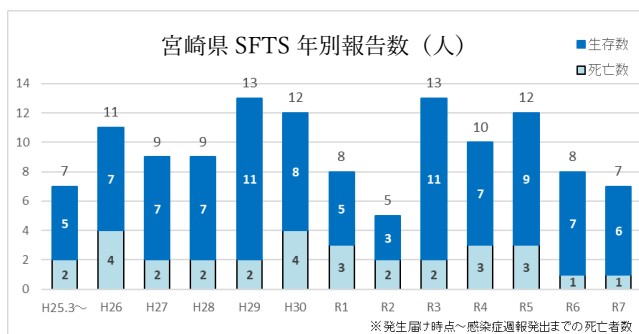
●患者住所地別発生数

市町村名	発生数	市町村名	発生数
宮崎市	28	新富町	1
都城市	5	西米良村	2
延岡市	15	木城町	1
日南市	18	川南町	1
小林市	0	都農町	4
日向市	10	門川町	4
串間市	3	諸塚村	1
西都市	12	椎葉村	1
えびの市	0	美郷町	5
三股町	1	高千穂町	0
高原町	1	日之影町	4
国富町	3	五ヶ瀬町	0
綾町	0	県外	4
高鍋町	0	合計	124

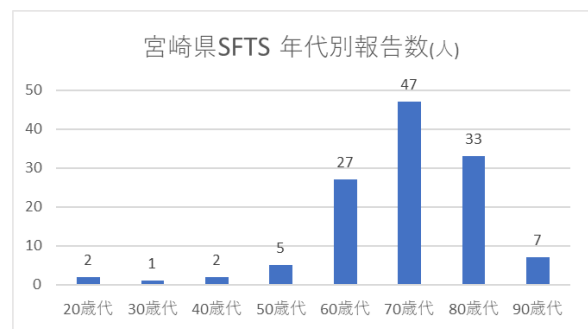
赤：累積10例～
黄：累積1～9例



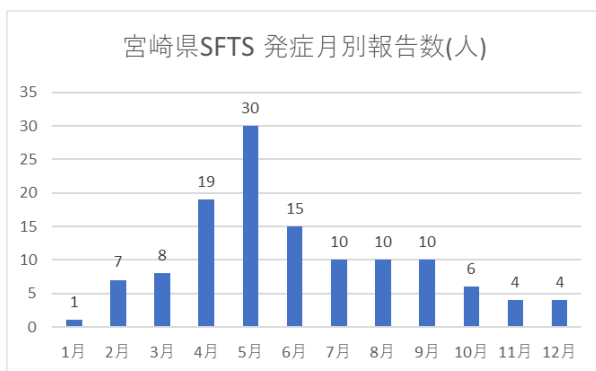
●年別報告数



●年代別報告数

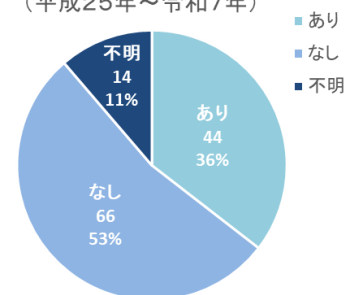


●発症月別報告数



●刺し口の有無

宮崎県 SFTS 刺し口の有無
(平成25年～令和7年)



●患者の野外作業・動物との接触歴

- ・山や竹藪で作業（林業、山の手入れ、山菜・たけのこ採り）
- ・田んぼや畑で作業（家から離れた畑、自宅敷地内の畑（家庭菜園）、草むしり）
- ・産業動物の世話（牛、鶏、山羊）
- ・草があるような場所（あぜ道、川沿い）で散歩
- ・動物飼育歴（イヌ、ネコ等。屋内外含む）

2 つつが虫病

2-1. 疾患概要

つつが虫病リケッチア（Orientia tsutsugamushi）を保有するツツガムシに刺されることによって感染する感染症。

ツツガムシに刺されてから5～14日の潜伏期間を経て、全身倦怠感、食欲不振とともに頭痛、悪寒、発熱などを伴って発症する。発症3～4日目より不定型の発疹が顔面、体幹を中心に出現する。重症化した場合、肺炎や脳炎症状を来す。

4類感染症指定疾患。

2-2. つつが虫病の発生状況

（1）全国での発生状況

令和7年の報告数は、290件であった。（速報値）

令和7年は、千葉県（54件）、宮崎県（20件）、青森県（17件）、福島県（17件）、岐阜県（16件）の順に多く報告された。

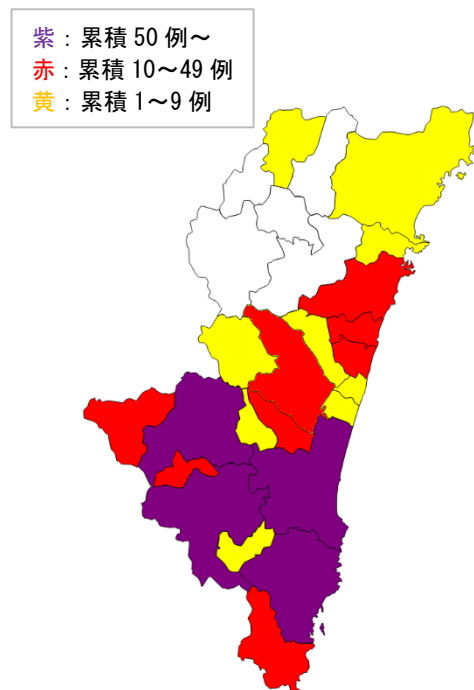
（2）県内での発生状況

令和7年の報告数は、20件であった。

年代は、10歳代が1件、50歳代が2件、60歳代が7件、70歳代が6件、80歳代以上が4件であった。

【参考：平成18年から令和7年までの患者住所地別報告数】

市町村名	発生数	市町村名	発生数
宮崎市	102	新富町	1
都城市	168	西米良村	3
延岡市	2	木城町	1
日南市	55	川南町	18
小林市	137	都農町	34
日向市	21	門川町	2
串間市	46	諸塚村	0
西都市	10	椎葉村	0
えびの市	39	美郷町	0
三股町	9	高千穂町	2
高原町	31	日之影町	0
国富町	12	五ヶ瀬町	0
綾町	8	県外・不明	50
高鍋町	2	合計	753



3 日本紅斑熱

3-1. 疾患概要

リケッチア・ジャポニカ（*Rickettsia japonica*）を保有するダニに刺されることによって感染するダニ媒介感染症。

ダニに刺されてから2～8日の潜伏期間を経て、発熱、四肢から体幹に広がる発疹を主訴とする。つが虫病と臨床的に類似する。

4類感染症指定疾患。

3-2. 日本紅斑熱の発生状況

（1）全国での発生状況

令和7年の報告数は、674件であった。（速報値）

令和7年は、三重県（86件）、広島県（64件）、島根県（61件）、千葉県（61件）、宮崎県（33件）の順に多く報告された。

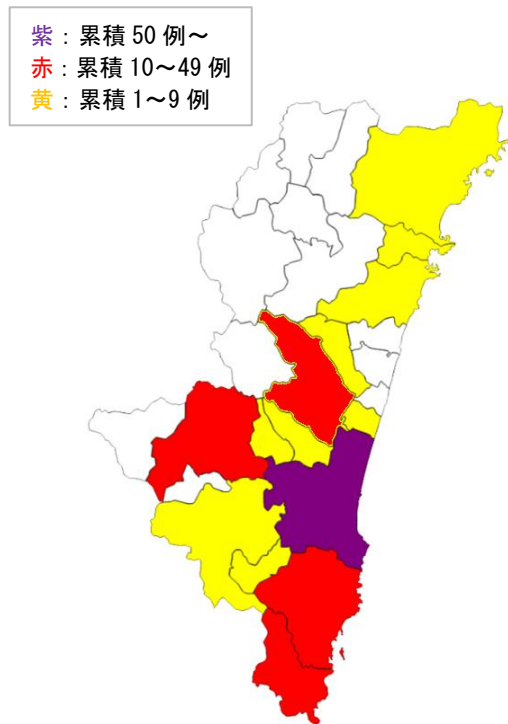
（2）県内での発生状況

令和7年の報告数は、33件であった。

年代は、20歳代が1件、50歳代が2件、60歳代が8件、70歳代が11件、80歳代以上が11件であった。

【参考：平成18年から令和7年までの患者住所地別報告数】

市町村名	発生数	市町村名	発生数
宮崎市	77	新富町	1
都城市	8	西米良村	0
延岡市	4	木城町	3
日南市	46	川南町	0
小林市	18	都農町	1
日向市	1	門川町	2
串間市	19	諸塚村	0
西都市	10	椎葉村	0
えびの市	0	美郷町	0
三股町	5	高千穂町	0
高原町	0	日之影町	0
国富町	5	五ヶ瀬町	0
綾町	6	県外	4
高鍋町	1	合計	211



4 県における普及啓発の取り組み

●ポスター・リーフレットの配布

保健所、観光協会、農業協同組合、森林組合等に配布予定

●保健所における取り組み

狩猟免許更新講習受講者等に対する SFTS に関する講話や、医療機関、保育施設、食品衛生責任者講習会等でのリーフレット配布やポスター掲示など、通年で啓発活動を実施。



●県ホームページでの啓発・注意喚起

<掲載内容>

- ・ SFTS の概要
- ・ 県内の発生状況
報告数、死亡者数、年代別報告数、地域別発生数
- ・ 全国の発生状況
- ・ 感染経路・予防策

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)に関するお知らせ

重症熱性血小板減少症候群(Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome:SFTS)は、2025年の感染症発生動向調査において県内で**7件**の報告がありました(2025年11月2日現在)。

2013年3月の届出開始以降、累積報告数は**124件**となっています。

この感染症は、マダニに刺されないようにすることが最も重要な感染予防対策です。

マダニは、春から秋にかけて活動が活発になります。

野外活動の折には、しっかり予防策を行い、マダニに刺されないようにしましょう。

他県では、SFTSを発症した動物からヒトに感染したと考えられる事例も報告されており、感染症予防のため、マダニだけでなく、体調不良の動物との接触の際には細心の注意が必要です。

SFTSについて

SFTSは、2011年に中国において初めて報告された、SFTSウイルスによる感染症です。

主にウイルスを保有するマダニに刺されることにより感染します。

主な初期症状は、発熱・全身倦怠感・消化器症状などで、重症化し死亡することもあります。

●市町村における取り組み

広報誌やホームページでの啓発、介護予防教室や高齢者クラブでの SFTS に関する講話、シルバー人材センターや百歳体操参加者へのリーフレット配布など、通年で啓発活動を実施。